

挨拶

退任挨拶

前副会長

江 藤 弘 純



江藤でございます。私は退任でございますので、手短に一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

私がこの知的財産協会に出入りしましたのは、まさにこの職についてからでございますので、2年間、いろいろお世話になりありがとうございます。特に、野間口前会長ほか皆様方とのいろいろなおつき合いを通じまして、私自身も新しい世界に触れることができ、非常に貴重な2年間を送ることができたと思っております。

ちょうど2年間の後半部分に、100年に一度という同時不況が来たわけでございますけれども、考えようによりますと皆が同じように不況の中にいるわけでございますから、その中から一歩でも二歩でも早く抜け出すことができれば、それは新たな秩序、序列をつくる新しいパラダイムのイニシアチブをとれるわけでございますので、私といたしましては、今はまさに100年に一度の好機到来と思いたいなと日ごろ自分に言い聞かせながら、日常、仕事をしているつもりでございます。

皆様ご承知のとおり、先端技術を開発し、特許化をし、そして、新しい産業を興し、市場をリードしていくと、そういう中で知財部門の役割の大きさというのは、これは申すまでもないことでございますし、日々取り組まれていることかと思えます。私は食品産業に身を置いているものですからそちらの観点で一言でお話いたしますと、食品産業といえますのは技術的な意味でのイノベーションであるとか、あるいは特許といったようなものへの依存度はほかの業界と比べれば、比較的小さいほうかと思えます。

そういう業界にあって、今の時期をどういうふうに見たり、あるいは他の会社さんの動きで勉強させていただいたりしておりますと、主だった食品会社さんを思い浮かべていただければよろしいのですけれども、この業界というのは、ロングセラーの商品が非常に多いわけでございます。40年、50年と続いている商品を、大体主だった会社さんはお持ちでございますし、単に長生きをした商品というだけではなくて、各社の経営に非常に大きな貢献をしております。4、50年前と申しますと、ちょうど皆様が小学校あるいは幼稚園のころに、遠足に持っていくお菓子だったり食卓に並んでいた商品が今もあるということでございます。

これはいずれも、技術的な側面もさることながら、味覚であったり、あるいは品質であったり、価格であったり、包装デザインであったり、そして、商品名であったりと、こういったもので構成されるいわゆるブランドといったものに対してお客様が大きな安心と信頼を寄せていただいている、その賜物であると思っておりますし、またそのことが企業にとりましても生き長らえていく上での非常に

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します

大きな財産であると感じております。こういう分野におきましても、商標権をはじめといたします知的財産的な活動が非常に大きな役割を果たしている、あるいは、皆様方に支えられている部分があると思っております。

今、先端技術である、あるいは商標であると、2つの例を申し上げましたけれども、今後とも、その2つにかかわらず、皆様は専門家として十分ご承知のことだと思っておりますけれども、この不況のときであるからこそ発揮できる部分が非常に大きいということを申し上げまして、今後とも産業の発展、国力の充実、そして何よりもお客様方に新しい価値と新しい生活スタイルを提案できるようなそういう産業を担っていく、その大きな1つの柱として知的財産あるいは知的財産協会が発展いたしますことを祈念いたしまして、私のお礼と挨拶にかえさせていただきたいと思っております。

2年間、本当にいろいろありがとうございました。ご発展をお祈り申し上げます。

